

学校名	木曾養護学校		
ホームページURL	児童・生徒数 35名 ( 高等部 17名 )		
(1) テーマ 「木曾馬の里へ行こう」 テーマの分類 ( )	(2) 活動の単位に をつけてください 部全体 該当学年 1～3年		
(3) 活動のねらい ・木曾馬の里に行くことで興味・関心をもてることを見つけ、体験したり、作ったり、調べたりすることを通して、経験を広げたり、わからないことを知るにはどうしたらよいかを理解したりする。 ・描いたり、文章にまとめたり、発表したりすること等を通して表現する力を高める。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・木曾馬の里へ行き、木曾馬とかかわったり(呼びかける・話す・触れる・えさをやる・ブラッシングをする・乗馬をする) 風景を見ながら散歩したり、絵を描いたり、写真を撮ったり、石や植物を採集したり、馬の名前調べをしたり、体験をしたり(そば打ち・フラワーアレンジメント・乗馬)した。 【同じことを希望した生徒でグループを編成し、部職員が分担して支援した。】 ・調べたいことがあると観光センターで聞いたり、学校で本やインターネットで調べたり、家族に取材したりした。 【観光センターは部全員で訪問し、その他は学級対応を中心に学習した。】 ・おやつに食べた朴葉巻きの作り方を知りたいということで、地域の方に教えていただいた。 【役場の観光課の協力を得て、廃校になった学校の校舎を使わせていただいたり、地域の方と連絡をとっていただいたり、材料の手配をしていただいたりした。】 ・学習発表会を行った。 【作品を見せあったり、ビデオを使ったり、クイズ形式の発表があったりしてとても盛り上がった。】 時数(30)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・高等部職員で指導体制を組んで学習に取り組んだ。 ・A村では、牧場の方々、おみやげセンターや観光センターの方々とかかわり、B町では、役場の係の方や四季の会の方々とかかわった。 ・馬とかかわり方、刃物や熱湯を使用するときの注意などを生徒の実態に合わせて繰り返し指導した。【職員配置を工夫し、特に心配な場面では1対1で対応した。】			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・生徒の願いを実現することを大切に考えて対応した。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・生徒が自ら動いた姿や継続して活動した姿を評価するよう試みた。			
(8) 成果と課題 ・以前から行ったことのある場所を選択したこと、いろいろな素材がある地域だったことで、生徒が興味をもって意欲的に学習し、活動の幅の広がりや自立する力の高まりが見られた。 ・地域の方々が非常に協力的であり、生徒への対応がよかった。今後も連携を深めたい。			

テーマの分類 横断的・総合的な課題( -ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境  
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や  
学校の特色に応じた課題